

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2010(平成22)年9月15日 第445号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp
毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

受診率をいかに上げるか

第18回日本がん検診・診断学会総会

検診対象者の特性に合わせた 受診勧奨の在り方などを討議

わが国では、2007年にがん対策基本法が施行され、08年、同法に基づき、がん対策推進基本計画が策定された。

同計画では、がん検診受診率を5年以内に50%以上にするとしたが、現状では達成できそうにない。また、がん死亡率を減らすためには、有効で精度の高い検診を実施することが前提となっている。欧米などでは、高度な精度管理体制を有する組織型検診を実施。高い検診受診率を維持することで、乳がん検診などで死亡率減少効果を上げている。一方、ピンクリボンなどの啓発キャンペーンは、がん検診の認知度の上昇にはなるが、今のところ、受診率の向上には直接結びついていないようだ。このため、今後は科学的根拠に基づいた、系統的な受診率向上策の導入が求められている。こうした中、7月16、17日に東京・千代田区で開催された第18回日本がん検診・診断学会総会(会長 麦高秀雄 日本大学医学部教授)では、がん検診の受診率の向上をテーマにシンポジウムが開催された。今月はその概要を紹介する。

シンポジウム「がん検診の受診率の向上」(座長 齋藤博 国立がん研究センターがん予防検診研究センター部長 中山富雄 大阪府立成人病センターがん予防情報センター課長 写真上)では、がん検診の受診率向上策を巡って、4人の専門家が登壇した(写真下)。



最初に登壇した、宮城県対がん協会がん検診センターの洪谷大助所長(厚生労働省「受診率向上」につながるがん検診の在り方や普及啓発の方法の開発等に関する研究)と述べた。

われわれは、街頭調査などから、対策型検診・任意型検診、地域検診・職域検診、病院診療で行う検査などの区別を、ほぼ正確に記入できる調査票を作成した。この調査票を用いてアンケートを実施したところ、地域検診と職域検診の割合が大きく異なるなど、年代による受診経緯の違いが明白となったため、受診率向上対策には年代別のアプローチが必要と考えられる。

次に、「福井県におけるがん検診の実態と受診率向上策」と題して講演した福井県健康管理協会の松田一夫副理事長は、09年に行った大腸がん検診の受診率向上キャンペーンの成果を報告。福井市在住の男女約1万人を対象に2群に分けて調査した結果、テレビコマーシャルのみを行った群より、合わせて個別受診勧奨を行った群に受診率向上の効果があつたことを示した。

最後に、自治医科大学の石川善樹研究生が、「東京都杉並区における過去5年間乳がん検診未受診者に対する個別受診勧奨の有効性に関する介入研究」と題して講演した。石川研究生は、「本研究では住民基本台帳から過去5年間、乳がん検診の受診歴のない45〜47歳、55〜57歳の女性7500人を抽出し、研究対象とした。対象者を介入群と対照群に無作為割りつけし、介入群には個別受診勧奨を行った。その結果、ソーシャルマーケティングの手法で開発されたメッセージで個別受診勧奨を行った介入群は、対照群より乳がん検診申し込み率が高かった」と報告した。

その後の総会討議では、検診対象者の網羅的な把握やコール・リコールシステムの導入に向けた整備など、今後の受診率向上策についての活発な議論が行われた。

平井助教は、欧米で乳がん検診の受診率向上を目的に、行動科学の理論と方法を用いて行われた研究で、テラード介入(注2)による個別受診勧奨を行った結果、検診受診率向上の効果が高いと示されたことを紹介。

また、行動科学やソーシャルマーケティング(注3)を組み合わせた乳がん検診受診率向上策を、ほぼ正確に記入できる調査票を作成した。この調査票を用いてアンケートを実施したところ、地域検診と職域検診の割合が大きく異なるなど、年代による受診経緯の違いが明白となったため、受診率向上対策には年代別のアプローチが必要と考えられる。

次に、「福井県におけるがん検診の実態と受診率向上策」と題して講演した福井県健康管理協会の松田一夫副理事長は、09年に行った大腸がん検診の受診率向上キャンペーンの成果を報告。福井市在住の男女約1万人を対象に2群に分けて調査した結果、テレビコマーシャルのみを行った群より、合わせて個別受診勧奨を行った群に受診率向上の効果があつたことを示した。

最後に、自治医科大学の石川善樹研究生が、「東京都杉並区における過去5年間乳がん検診未受診者に対する個別受診勧奨の有効性に関する介入研究」と題して講演した。石川研究生は、「本研究では住民基本台帳から過去5年間、乳がん検診の受診歴のない45〜47歳、55〜57歳の女性7500人を抽出し、研究対象とした。対象者を介入群と対照群に無作為割りつけし、介入群には個別受診勧奨を行った。その結果、ソーシャルマーケティングの手法で開発されたメッセージで個別受診勧奨を行った介入群は、対照群より乳がん検診申し込み率が高かった」と報告した。

● 今月の主な紙面 ●

- (1面) ● 受診率をいかに上げるか
第18回日本がん検診・診断学会総会
- (2・3面(見開き))
 - 連載 歯の喪失は予防できる
人生の最後までおせんべいをバリバリと 第2回
 - 話題 東京都のがん対策の現状
 - 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
元気でいきいきシリーズ 第4回:医師/保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ● 健診・人間ドックにおける眼科検診項目の意義と限界
第232回ヘルスケア研修会
 - 「東京都予防医学協会賞」PKU親の会で表彰
 - 予防医学事業中央会全国運営会議が開催
 - 第28回 全国情報統計研修会が開かれる
 - お知らせ

もこうしたシステムを導入し、検診受診率向上につながる。日本では、この受診率向上策を評価し、対応策を立てるためには、全てのがん検診を網羅した、受診率のモニタリングが必要だ。そのため、それらを把握する受診率モニタリング法を開発した。

松田副理事長は、「マ



その後の総会討議では、検診対象者の網羅的な把握やコール・リコールシステムの導入に向けた整備など、今後の受診率向上策についての活発な議論が行われた。

個人情報取扱について

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江幡良晴 三輪祐一

お問い合わせ・
ご相談は事務局まで
(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・
中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

歯の喪失は 予防できる

人生の最後まで おせんべいを

2

アイランドコーク大学
西 真紀子 歯科医師

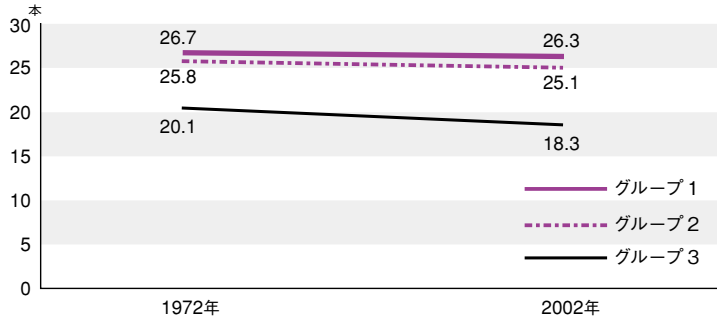
成人歯は全部で28本あり、そのうち20本は臼歯(臼歯)です。親知らず(第7臼歯)を除くと、28本のうち26本が臼歯です。臼歯は、咀嚼(くわ)に重要な役割を果たしています。臼歯がなくなると、咀嚼力が低下し、栄養の吸収が難しくなるだけでなく、歯槽膿漏(歯ぐきから膿が出る病気)や顎関節症(顎の関節が痛くなる病気)の原因にもなります。

現在、日本では、65歳以上の高齢者に歯が10本以下という人が約2000万人に達しています。これは、2000年と比較して、約10倍に増加しています。このように、高齢者の歯の喪失は、深刻な社会問題となっています。

歯の喪失は、予防することが可能です。定期的な歯科検診を受け、歯垢(プラーク)の除去や、歯周病の治療を行うことが重要です。また、歯の喪失を防ぐためには、適切な食生活や、歯の強化も大切です。

歯の喪失は、人生の最後までおせんべいを食べることに影響を与えます。歯を大切に守り、咀嚼力を保ち、人生の最後までおいしくおせんべいを食べたいですね。

スウェーデンの30年間予防プログラムの結果 1人当たりの平均残存歯数



グループ1は(1972年に)20~35歳で、喪失歯数 0.4本(1年当たり0.01本)
 グループ2は(1972年に)36~50歳で、喪失歯数 0.7本(1年当たり0.02本)
 グループ3は(1972年に)51~65歳で、喪失歯数 1.8本(1年当たり0.06本)
 この30年でほとんど残存歯数が変わっていない

話題

平成22年度第1回東京都生活習慣病検査 管理指導協議会が本部会の報告を中心に 東京都のがん対策の現状

本部会・保健会館クリニック所長 小野良樹

東京都では、1977年から、死亡原因のトップはがんである。現在、年間死亡者数は3万人を超えている。また、がん患者数も、高齢化の進行と共に、今後も増加が見込まれている。東京都では、「東京都のがん対策推進計画」や「東京都健康推進プラン21新中期5ヵ年戦略」などの施策により、こうした状況の改善に取り組んでいる。専門医として東京都のがん対策に協力している小野良樹本部会・保健会館クリニック所長が、東京都のがん対策の現状について語った。

東京都では、1977年から、死亡原因のトップはがんである。現在、年間死亡者数は3万人を超えている。また、がん患者数も、高齢化の進行と共に、今後も増加が見込まれている。東京都では、「東京都のがん対策推進計画」や「東京都健康推進プラン21新中期5ヵ年戦略」などの施策により、こうした状況の改善に取り組んでいる。専門医として東京都のがん対策に協力している小野良樹本部会・保健会館クリニック所長が、東京都のがん対策の現状について語った。

特に08年度の落ち込みが顕著なのは、特定健診。特定健診の向上が期待されている。東京都生活習慣病検査管理指導協議会(協議会)が先導されている。協議会では、先立って、1998年に開始した「東京都健康調査管理指導等事業」では、がん検診には従来の増加傾向がみられましたが、この間はピンクリボンなどの関心、検査の方法や精度の向上などにより、検診率向上が期待されています。

がん対策は 重大な健康課題

東京都では、2008年、がん検診の受診率向上が課題とされています。がん検診の受診率向上は、がんの早期発見につながります。東京都では、がん検診の受診率向上を推進するための施策を行っています。

東京都のがん検診 受診率向上事業 東京都生活習慣病検査管理指導協議会(協議会)が先導されている。協議会では、先立って、1998年に開始した「東京都健康調査管理指導等事業」では、がん検診には従来の増加傾向がみられましたが、この間はピンクリボンなどの関心、検査の方法や精度の向上などにより、検診率向上が期待されています。

東京都のがん検診 受診率向上事業 東京都生活習慣病検査管理指導協議会(協議会)が先導されている。協議会では、先立って、1998年に開始した「東京都健康調査管理指導等事業」では、がん検診には従来の増加傾向がみられましたが、この間はピンクリボンなどの関心、検査の方法や精度の向上などにより、検診率向上が期待されています。

東京都のがん検診 受診率向上事業 東京都生活習慣病検査管理指導協議会(協議会)が先導されている。協議会では、先立って、1998年に開始した「東京都健康調査管理指導等事業」では、がん検診には従来の増加傾向がみられましたが、この間はピンクリボンなどの関心、検査の方法や精度の向上などにより、検診率向上が期待されています。

東京都では、2008年、がん検診の受診率向上が課題とされています。がん検診の受診率向上は、がんの早期発見につながります。東京都では、がん検診の受診率向上を推進するための施策を行っています。

東京都のがん検診 受診率向上事業 東京都生活習慣病検査管理指導協議会(協議会)が先導されている。協議会では、先立って、1998年に開始した「東京都健康調査管理指導等事業」では、がん検診には従来の増加傾向がみられましたが、この間はピンクリボンなどの関心、検査の方法や精度の向上などにより、検診率向上が期待されています。

東京都のがん検診 受診率向上事業 東京都生活習慣病検査管理指導協議会(協議会)が先導されている。協議会では、先立って、1998年に開始した「東京都健康調査管理指導等事業」では、がん検診には従来の増加傾向がみられましたが、この間はピンクリボンなどの関心、検査の方法や精度の向上などにより、検診率向上が期待されています。

東京都のがん検診 受診率向上事業 東京都生活習慣病検査管理指導協議会(協議会)が先導されている。協議会では、先立って、1998年に開始した「東京都健康調査管理指導等事業」では、がん検診には従来の増加傾向がみられましたが、この間はピンクリボンなどの関心、検査の方法や精度の向上などにより、検診率向上が期待されています。

目標とする 新しい歯科医療

2008年の厚生労働省の歯科疾患実態調査では、80歳以上の高齢者に歯が10本以下という人が約2000万人に達しています。これは、2000年と比較して、約10倍に増加しています。このように、高齢者の歯の喪失は、深刻な社会問題となっています。

歯の喪失は、予防することが可能です。定期的な歯科検診を受け、歯垢(プラーク)の除去や、歯周病の治療を行うことが重要です。また、歯の喪失を防ぐためには、適切な食生活や、歯の強化も大切です。

歯の喪失は、人生の最後までおせんべいを食べることに影響を与えます。歯を大切に守り、咀嚼力を保ち、人生の最後までおいしくおせんべいを食べたいですね。

歯の喪失は、人生の最後までおせんべいを食べることに影響を与えます。歯を大切に守り、咀嚼力を保ち、人生の最後までおいしくおせんべいを食べたいですね。

あなたには 検査を ワクチンを!

医師のコラム



北村邦夫

子宮頸がんの罹患率は年々増加し、12月22日から接種間10万人当たり1.1人死がスタートしました。私どもは、近年は特に20代、30代の女性に増加しており、早期発見が遅れ子宮の摘出を余儀なくされ子どもを産むことができなくなったり、中にはがんの広範囲な転移によって死に至ることもあります。

子宮頸がんの罹患率は年々増加し、12月22日から接種間10万人当たり1.1人死がスタートしました。私どもは、近年は特に20代、30代の女性に増加しており、早期発見が遅れ子宮の摘出を余儀なくされ子どもを産むことができなくなったり、中にはがんの広範囲な転移によって死に至ることもあります。

子宮頸がんの罹患率は年々増加し、12月22日から接種間10万人当たり1.1人死がスタートしました。私どもは、近年は特に20代、30代の女性に増加しており、早期発見が遅れ子宮の摘出を余儀なくされ子どもを産むことができなくなったり、中にはがんの広範囲な転移によって死に至ることもあります。

子宮頸がんの罹患率は年々増加し、12月22日から接種間10万人当たり1.1人死がスタートしました。私どもは、近年は特に20代、30代の女性に増加しており、早期発見が遅れ子宮の摘出を余儀なくされ子どもを産むことができなくなったり、中にはがんの広範囲な転移によって死に至ることもあります。

保健師の体験レポート

走って 気分爽快!



穴原静絵 本会・保健師

走ることを始めてから2年が経ちます。週に1、2回、マイペースで走るのが気分転換になっています。走ると、気分が爽やかになり、ストレスが解消されます。また、走ることで、免疫力が向上し、病気になりにくくなります。

走ることを始めてから2年が経ちます。週に1、2回、マイペースで走るのが気分転換になっています。走ると、気分が爽やかになり、ストレスが解消されます。また、走ることで、免疫力が向上し、病気になりにくくなります。

走ることを始めてから2年が経ちます。週に1、2回、マイペースで走るのが気分転換になっています。走ると、気分が爽やかになり、ストレスが解消されます。また、走ることで、免疫力が向上し、病気になりにくくなります。

走ることを始めてから2年が経ちます。週に1、2回、マイペースで走るのが気分転換になっています。走ると、気分が爽やかになり、ストレスが解消されます。また、走ることで、免疫力が向上し、病気になりにくくなります。

健康づくり・健康増進を支援するページ

元気でいきいき

アドバイザー 岡 愷治 (健康管理コンサルタント)

4 シリーズ

運動は、健康増進に効果的です。毎日30分程度の運動を行うことで、心臓機能が向上し、血行が促進されます。また、運動することで、ストレスが解消され、気分が爽やかになります。

運動は、健康増進に効果的です。毎日30分程度の運動を行うことで、心臓機能が向上し、血行が促進されます。また、運動することで、ストレスが解消され、気分が爽やかになります。

運動は、健康増進に効果的です。毎日30分程度の運動を行うことで、心臓機能が向上し、血行が促進されます。また、運動することで、ストレスが解消され、気分が爽やかになります。

運動は、健康増進に効果的です。毎日30分程度の運動を行うことで、心臓機能が向上し、血行が促進されます。また、運動することで、ストレスが解消され、気分が爽やかになります。

「歴史」今も昔も

その疲れ B1不足かも!?



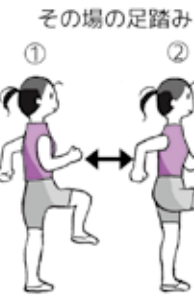
渡邊史子 本会・管理栄養士

ビタミンB1は、エネルギー代謝に重要な役割を果たしています。B1不足になると、疲労感や食欲不振、神経痛などの症状が現れます。B1を豊富に含む食品を摂取することで、B1不足を予防することができます。

ビタミンB1は、エネルギー代謝に重要な役割を果たしています。B1不足になると、疲労感や食欲不振、神経痛などの症状が現れます。B1を豊富に含む食品を摂取することで、B1不足を予防することができます。

ビタミンB1は、エネルギー代謝に重要な役割を果たしています。B1不足になると、疲労感や食欲不振、神経痛などの症状が現れます。B1を豊富に含む食品を摂取することで、B1不足を予防することができます。

ビタミンB1は、エネルギー代謝に重要な役割を果たしています。B1不足になると、疲労感や食欲不振、神経痛などの症状が現れます。B1を豊富に含む食品を摂取することで、B1不足を予防することができます。



その場の足踏み 1. 両足を肩幅より広く開き、つま先立ちになる。2. 踵を上げて、つま先立ちになる。3. 踵を下ろす。4. つま先立ちになる。1日10~30回目安



椅子スクワット 1. 椅子に座り、背を伸ばす。2. 椅子の座面を踏み、お尻を後ろに突き出す。3. ゆっくり下ろす。4. 椅子の座面を踏み、お尻を後ろに突き出す。1日10~20回目安

運動相談FAQ

骨を強くするために

骨を強くするためには、定期的な運動が効果的です。特に、骨密度を増加させるためには、ランニングやウォーキングなどの有酸素運動が効果的です。また、カルシウムを豊富に含む食品を摂取することも大切です。

骨を強くするためには、定期的な運動が効果的です。特に、骨密度を増加させるためには、ランニングやウォーキングなどの有酸素運動が効果的です。また、カルシウムを豊富に含む食品を摂取することも大切です。



胃腸の働き 胃腸は、食べ物を消化し、栄養を吸収する役割を果たしています。健康的な食生活を摂ることで、胃腸の働きを良くすることができます。

健診・人間ドックにおける 眼科検診項目の意義と限界

第232回
ヘルスケア研修会

増え続ける視覚障害 視野検査導入が予防の鍵

わが国の視覚障害の原因疾患トップである緑内障は、早期診断の可能な慢性疾患である。しかし、その多くが正常眼圧であることから、従来の健診項目だけでは早期発見が難しく、視野検査の導入などの対策が課題となっている。こうした中、7月14日、健康管理コンサルタントセンターと本会が主催する第232回ヘルスケア研修会が開催され、東京慈恵会医科大学の中野匡講師(写真)が「健診・人間ドックにおける眼科検診項目の意義と限界」と題して講演を行った。



中野匡講師は、まず、視覚障害(よい方の目の矯正視力が0.5未満)の年代別の有病率や経済損失のデータを示し、次のように述べた。「わが国の視覚障害者は164万人、失明者は19万人と推計される。年代別では60歳以降の高齢者が増加している。人口高齢化に伴い、今後この傾向は続く」とされる。また、視覚障害による経済損失は、医療費負担、生産性の低下や社会的ケアなどの負担、QOL(生活の質)の損失を合わせて8兆8千億円にも達する。」

その上で中野講師は、「視覚障害の原因疾患の多くは早期の診断と治療が有効である。健診や人間ドックで、いかに早期発見していくかが課題となる」と強調した。

また、健診における眼科検査の現状については、労働安全衛生法で定められている健診が視力検査のみであること、特定健診では視力検査が廃止され、前年の腹囲、血糖、中性脂肪、血圧のデータが基準値を超えた者のみに眼底検査を行うとされていることなどから、「眼疾患は、予防医学的に重要視されていないのでは」と指摘した。

さらに、視覚障害の主な原因疾患である緑内障や糖尿病網膜症、網膜色素変性、黄斑変性症の病態を詳説。このうちトツプを占める緑内障に関しては、大規模疫学調査(多治見スタディ)の結果から、日本人では40歳以上の20人に1人という高い発症率であること、その約9割は眼圧が高くないタイプ(正常眼圧緑内障)であることなどを解説した。また、自覚症状に乏しいことから、未治療者が8割にも達することなどを指摘した。

中野講師は、「眼疾患は悪性腫瘍とは異なり、一度の見落としが致命的になる危険性は少ない。そのため、受診者には必要ない検査を強いることがないようにすることも大事な点である。適度な感度と優れた特異度、偽陽性が少ない検査や健診が理想と考えられる。視覚障害者が増加し、その多くが不可逆な疾患であることから、健診による早期発見は、非常に重要である」と述べ、講演をまとめた。

予防医学事業中央会 全国運営会議が開催

予防医学事業中央会(中央会)の平成22年度第1回全国運営会議が7月6日、東京・新宿区のグランドヒル市ヶ谷で開かれ、本会など全国の支部から約70人が参加した。

運営会議では、河合忠中央会新理事長のあいさつを皮切りに、各支部の新役員や事務局長の紹介などが行われた。続いて「新公益法人移行申請の現状について」と題し、

また、中央会からの報告では、ヘルスアップネット健診の現状と計画、全国支部の健診件数の集計とその活用、補助事業の動向、今年度の予定などが示された。

「東京都予防医学協会賞」 PKU親の会で表彰

PKU親の会で表彰

1977年にPKU(フェニルケトン尿症)などの先天代謝異常症の予後を向上するために、国は公費による新生児マス・スクリーニング検査の全国的な実施を指示。本会では東京都の委託を受け、都内で出生した新生児の検査を行ってきた。

新生児マス・スクリーニングで代謝異常が発見された子どもたちは、食事療法などの適切な治療の継続によって健康維持が可能である。検査開始当時に発見された子どもたちは、健やかな成長を遂

げ、既に社会で活躍しているが、成人になっても厳格な食事療法を続けることは容易ではない。このため、長期にわたる食事療法を継続して、良好な健康状態を維持し、社会で活躍している人々の努力を称え、今後もそれを継続していただくことを願い、本会では、2007年に新生児マス・スクリーニング30周年記念事業「東京都予防医学協会賞」を設立。毎年表彰を行い、今年度は4年目となる。

PKUの人々や家族なども、長期治療の大切さをよく



理解しており、8月15日、PKU親の会連絡協議会と親の会・関東が共催で「みんなで生涯治療を考えよう」をテーマに、東京で盛大な会を開催した。その席上で本会は受賞者2人を表彰し、賞状と副賞(記念品)を贈呈。また長年、患者や家族の支援に尽力された2人に特別賞を贈った。

当日はその他、高校生以上のPKUの人々を中心として、医師、栄養士、食事療法を支援している企業の担当者などを囲み、討論会「みんなで生涯治療を考えよう」(写真)が行われた。食事療法を生涯続けるPKUの人々の意思の強さが確認され、成人後の治療の継続による医療費の問題、職場など周囲への説明の苦労、女性の妊娠・出産などを巡って活発な議論が交わされ、有意義な会となった。

第28回 全国情報統計 研修会が開かれる

予防医学事業中央会(中央会)傘下の支部で情報処理や統計実務に携わる担当者を対象とした第28回全国情報統計研修会が8月26、27日の2日

間、福島市の福島ビューホテルで開かれた。研修会には本会など中央会の全国支部の担当者ら約80人が参加した。初日に行われたグループディスカッションでは、①情報処理担当者②職域健診成績処理担当者③施設(人間ドック)健診成績処理担当者④地域健診成績処理担当者の4つのグループに分かれて、それぞれの業務分野別に意見交換が行われた。

2日目は、福島県支部の中村一彦総務部長が「福島県

保健衛生協会の取り組み」と題して、支部活動の報告を行った。

その後、本会の原島隆史統計事務部長の進行で「効果的な成績作成処理を目指して」と題した全体討論が行われた。

全体討論では、作業の効率化や商品価値の高い報告書作りが求められるなど、成績書作成部門の役割が拡大している中で、より効率的な処理フローの在り方などを巡って活発な意見交換が行われた。

人・往来

●アジア・アフリカの学校保健担当行政官らが本会を視察
日本衛生虫予防会が東南アジアやアフリカからの学校保健及び教育担当中央省庁担当行政官ら15人を招き、衛生虫対策の講義を実施した。その一行が6月11日、本会を訪れ、施設を視察した。

お知らせ

平成22年度健やか親子21全国大会
併設集会 家族計画自由集会

山田邦子さんの楽しいトークで学ぶ
子宮頸がん予防とHPVワクチン

11月11日(木) 18時半～20時半
埼玉・さいたま市「埼玉会館大ホール」

従来のCAVI・ABIに加え、 末梢動脈疾患(PAD) 診断機能を強化!

血圧脈波検査装置(CAVI/ABI)

VaSera VS-1500Aシリーズ
医療機器承認番号: 22100BZX00762000

- TBI専用ユニット(ポンプ内蔵)で高性能を実現
新たに開発した足趾血圧ユニットTPU-15(ポンプ内蔵)により、脈波計測感度をあげることでTBI計測精度を大幅に上げました。
*足趾血圧ユニット(TPU-15)を付属しないWS-1500AE/ANもあります。
- 負荷ABI機能の追加
フクダ電子は独自のABI負荷装置VSL-100(オプション)を開発しました。更に負荷ABIの解析ソフトウェアを充実。





CAVI



ABI



TBI

本 社 / 〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp>
 お客様窓口 / ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00
 ●医療電子機器の総合メーカー **フクダ電子株式会社**